

# 第38回やまぐち眼科フォーラム

\*日本眼科学会専門医制度生涯教育事業単位申請中

日時：2023年1月21日(土) 18:00～20:00

会場：セントコア山口 「サファイヤ」

〒753-0056 山口県山口市湯田温泉3-2-7 電話：083-922-0811

会費：3,000円

開会の辞

相良 健 先生                      山口県眼科医会 副会長

【特別講演1】 18:00～19:00

◇座長◇

相良 健 先生                      山口県眼科医会 副会長



「水濡れ性を意識したドライアイ点眼治療」

内野 裕一 先生

慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任講師

(角膜/ドライアイ外来担当)

ケイシン五反田アイクリニック 副院長

【特別講演2】 19:00～20:00

◇座長◇

木村 和博 先生                      山口大学眼科 教授



「新しいガイドラインから考える緑内障治療  
アップデート2023」

井上 俊洋 先生                      熊本大学眼科 教授

共催：山口県眼科医会 / 参天製薬株式会社

# 第38回やまぐち眼科フォーラム

◇演者◇

**内野 裕一 先生** 慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任講師  
(角膜/ドライアイ外来担当)  
ケイシン五反田アイクリニック 副院長

眼表面バリアの最前線には、涙液中の分泌型ムチンやグライコカリックスと呼ばれる細胞表面保護組織が存在する。ドライアイでは眼表面の水濡れ性が低下し、涙液中分泌型ムチンの変化が影響していると考えられており、研究から得られた分泌型ムチンの臨床データについて供覧する。またグライコカリックスは、糖鎖を大量に持つ膜貫通型糖タンパク「膜型ムチン」と、このムチンの糖鎖に架橋する「ガレクチン3」により、緻密な格子状構造が形成されている。ドライアイでは膜型ムチンの糖鎖が変化し、膜型ムチンとガレクチン3によるバリアが破綻する。このバリア破綻の重症度と涙液中のガレクチン3の相関性について解説する。さらにグライコカリックスバリア破綻後に生じ、一般診療でもよく目にする点状表層角膜炎（SPK）の効率的な治療方法についても考えたい。

◇演者◇

**井上 俊洋 先生** 熊本大学眼科 教授

緑内障は現時点で我が国の後天性失明原因の第1位である。高齢化が進行するほど有病率は高くなることから、その診療が社会に与えるインパクトは、今後ますます大きくなると推測される。日本緑内障学会発行の緑内障診療ガイドラインは時代の変化に合わせて改訂が行われ、2022年の2月に第5版が発表された。ここではPOAGの治療に焦点を合わせたクリニカルクエスションも設定され、エビデンスを踏まえた回答がなされている。本講演では、この新しいガイドラインを踏まえた、緑内障治療にまつわる最近の話題について述べる。近年、薬物、レーザー、手術ともに、緑内障治療の選択肢が増えたが、何を念頭に使い分ければ良いのか、迷う場面も出てきたように感じられる。自験例と併せて皆様と知識を共有し、緑内障治療の知識をアップデートすることで、明日からの診療の一助となれば幸いである。